

食の志向等に関する調査結果

- 1 食に関する志向
- 2 国産品かどうかを気にかけるか
- 3 国産食品の輸入食品に対する価格許容度
- 4 飼料用米畜産物の購入経験・購入意向
- 5 食品購入時における安全性の判断基準

調査要領

調査時期 平成27年7月1日～7月15日
調査方法 インターネット調査
全国の20歳代～70歳代の男女2,000人（男女各1,000人）

※インターネット調査であるため、回答者はインターネット利用者に限られる。

詳しい調査結果は、当公庫ホームページ (<http://www.jfc.go.jp/>) に掲載しています。
トップページから「刊行物・各種調査結果」→「農林水産事業による調査」→「消費者動向等調査」の順をご覧ください。

<調査に関するお問い合わせ>

日本政策金融公庫 農林水産事業
情報企画部 TEL 03-3270-5585

注：図表において、四捨五入の関係上、合計が一致しない場合があります。

平成27年9月

1 食に関する志向

食費節約傾向から「経済性志向」大きく上昇

- 消費者の食の志向について、「健康志向」は41.0%で、前回調査より4.4ポイント減少したものの、本設問において10期連続の最多回答となった。
- 「経済性志向」が前回から6.0ポイント上昇しており、食料品をはじめとする消費者物価が上昇傾向にある中、食費をなるべく節約したいという消費者の意向が高まっていることが考えられる。
- 年代別では、「健康志向」は高齢世代、「経済性志向」「簡便化志向」は若齢世代に集中する傾向は、従来通り。「手作り志向」は70代で突出して高く、選択理由をみると、「経済的だから」という理由のほか、「減塩など好みの味付けができる」「手作りの方が安全・安心」などといった理由があり、「健康」「安全」なども含まれた形で「手作り」が選択されたとみられる。
- 今後の食の志向では、「健康志向」「安全志向」が現在の食の志向（図1）よりも高くなっている。現在の食の志向は、消費者物価上昇傾向を反映して「経済性」が上昇したが、潜在的な志向として、「健康」「安全」が根強いことがうかがわれる。

図1 現在の食の志向（上位）の推移（2つまで回答）

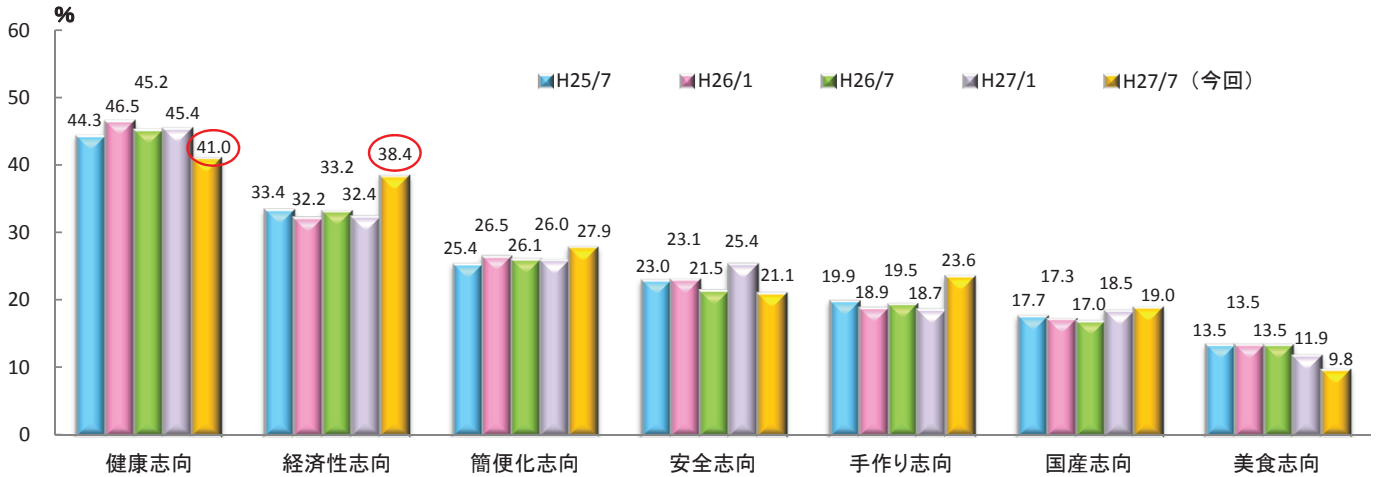


図2 年代別 現在の食の志向（上位）（2つまで回答）/平成27年7月調査

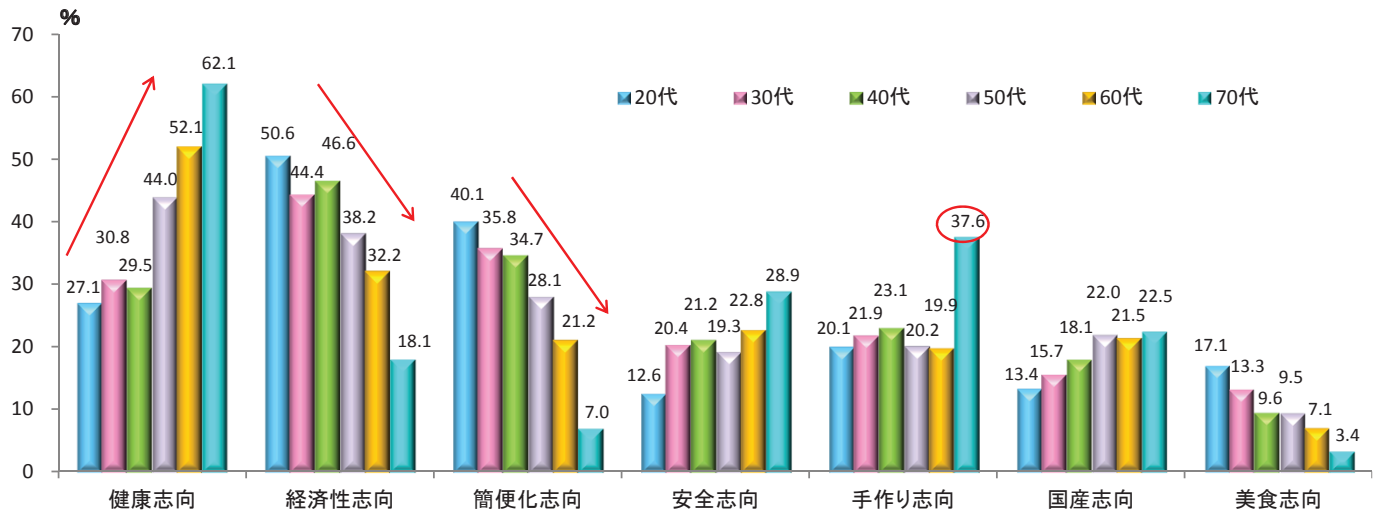
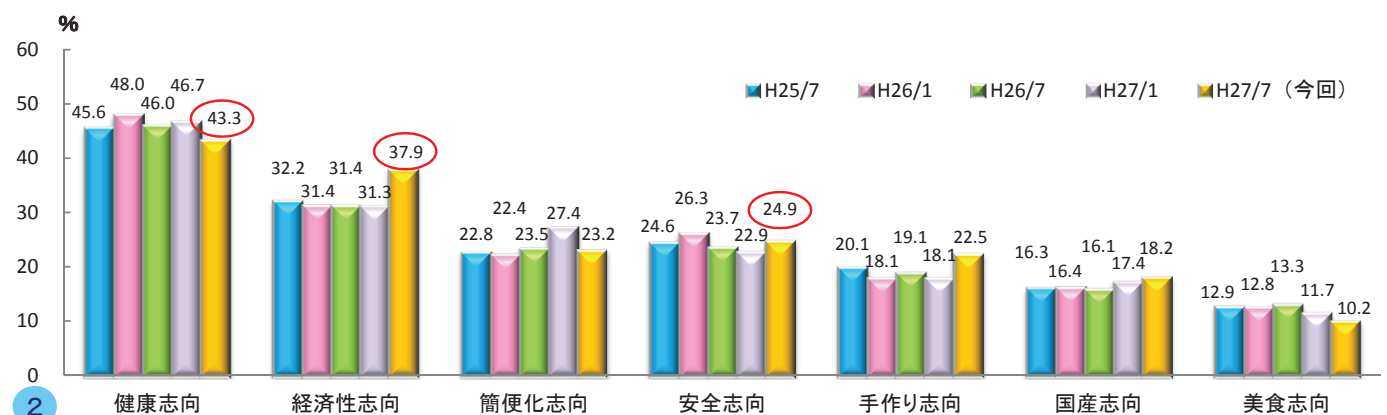


図3 今後の食の志向（上位）の推移（2つまで回答）



2 国産品かどうかを気にかけるか

安全、おいしさ、見た目など品質面で国産支持

- 食料品を購入するときに国産かどうか「気にかける」は80.0%、外食するときに国産かどうか「気にかける」は39.1%となり、前回調査から上昇若しくは同値となっており、経年的にみると、国産かどうかを「気にかける」傾向が強くなっている。
- 国産品に対する価格面のイメージでは、「高い」というイメージがより明確化。一方、安全面、おいしさ、見た目のイメージについては、「安全である」「おいしい」「色・形がよい」とする割合が、いずれも21年7月の本設問開始以降の最高値となっており、これら品質面で国産支持の傾向が顕著となった。

図4 食料品を購入するとき/外食するときに国産品かどうかを気にかけるか

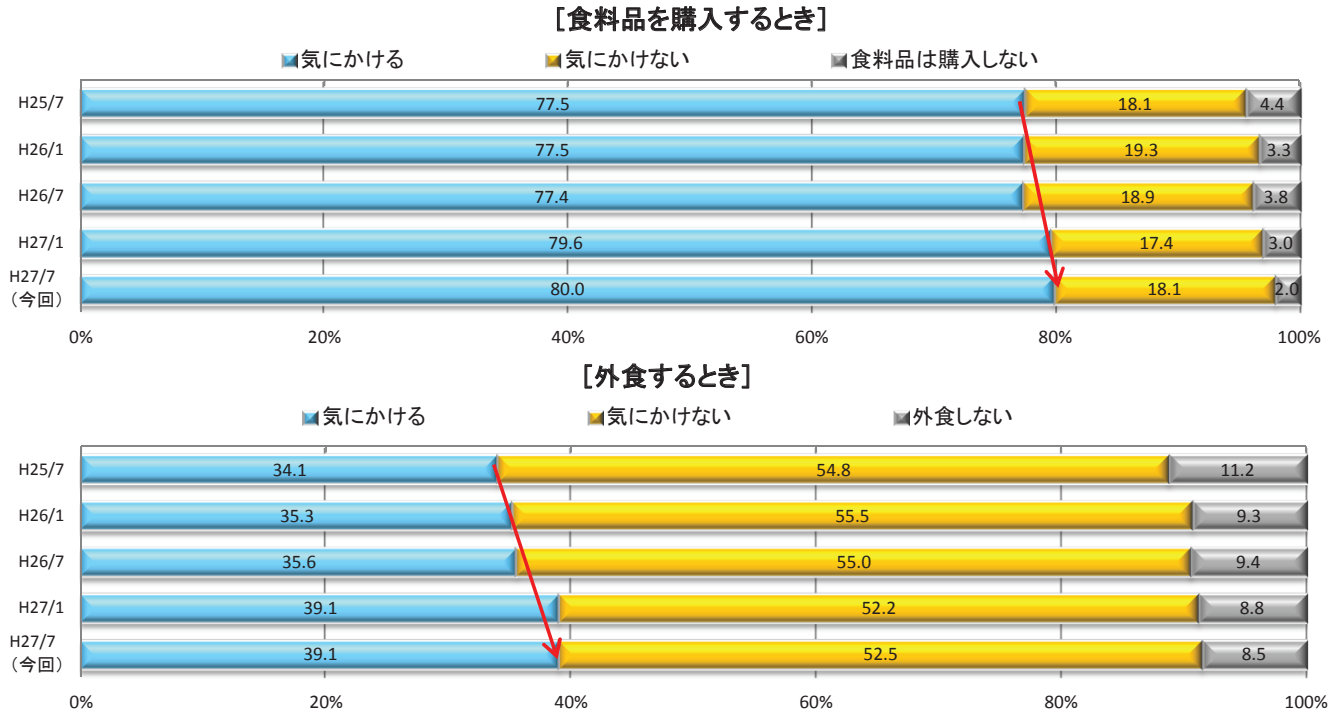
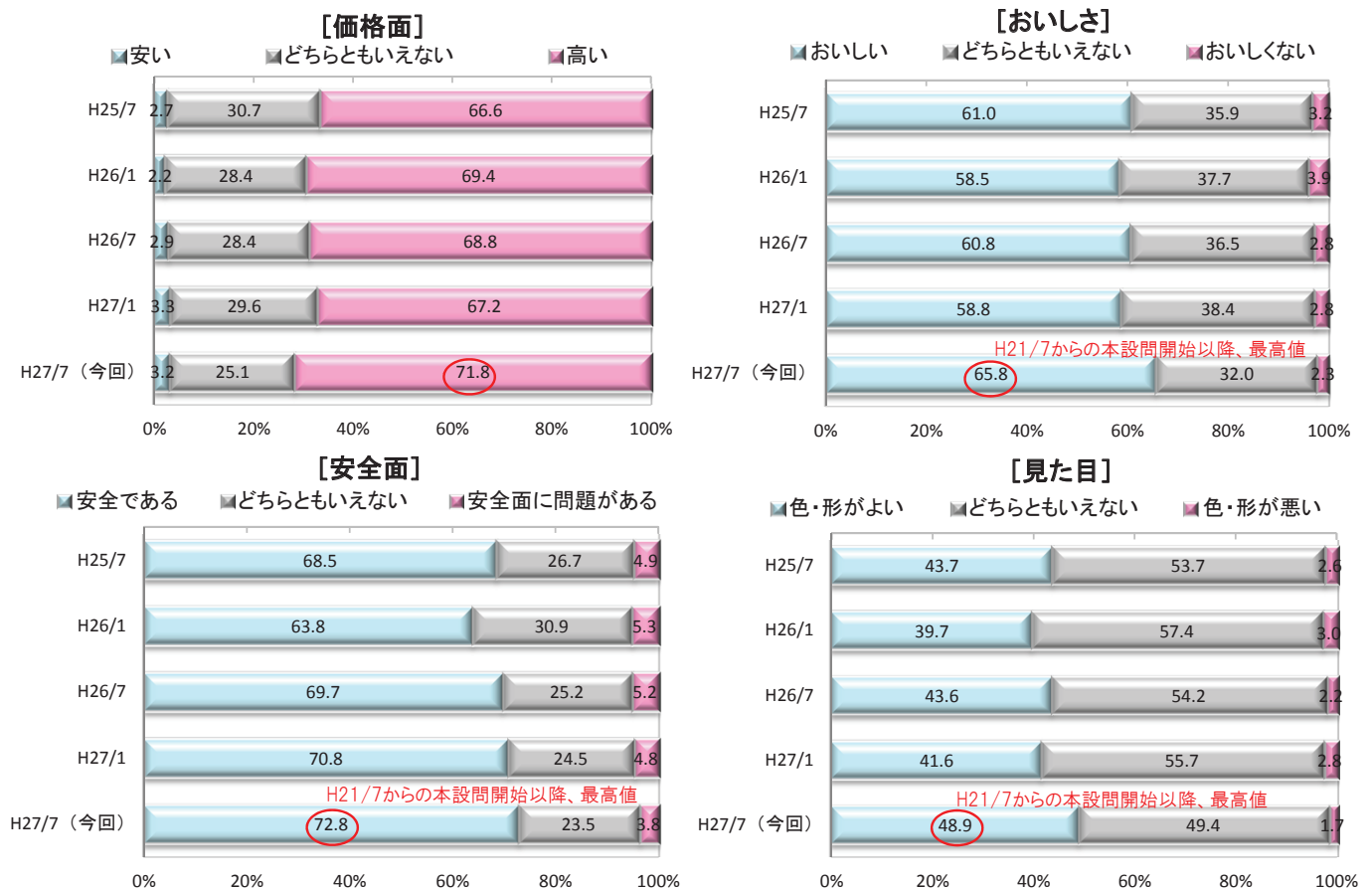


図5 国産原料の食品に対するイメージ（価格面、安全面、おいしさ、見た目）



3 国産食品の輸入食品に対する価格許容度

「割高でも国産」が前回を上回る高割合

- 「割高でも国産品を選ぶ」という回答は、前回調査を僅かながら上回る64.1%となり、20年5月調査(64.7%)に次ぐ、過去2番目に高い割合。全体的な傾向として、「3割高を超える」「3割高まで」の割合は低下しつつも、「2割高まで」「1割高まで」の割合が上昇する結果。
- 品目別では、きのこ、牛肉、豚肉、鶏肉で、前回調査結果よりも「割高でも国産品を選ぶ」とした割合が上昇する結果。

図6 国産食品の輸入食品に対する価格許容度の推移

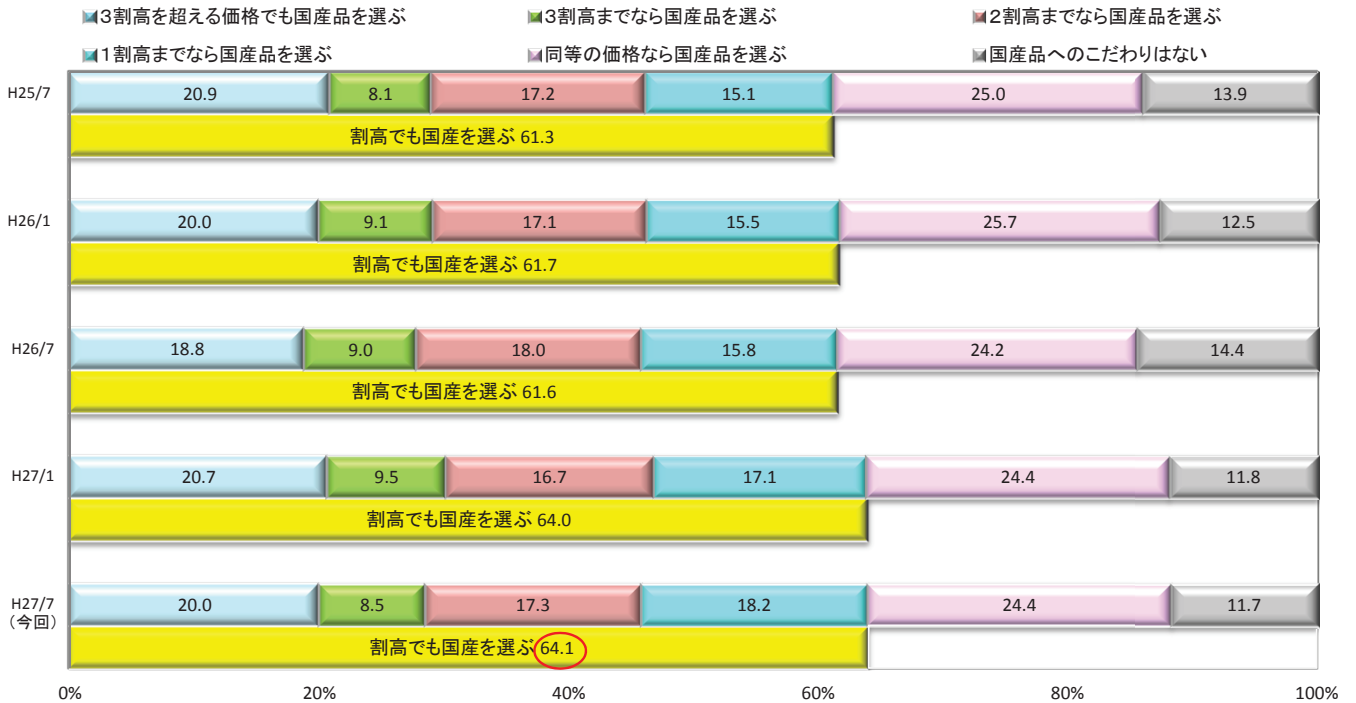
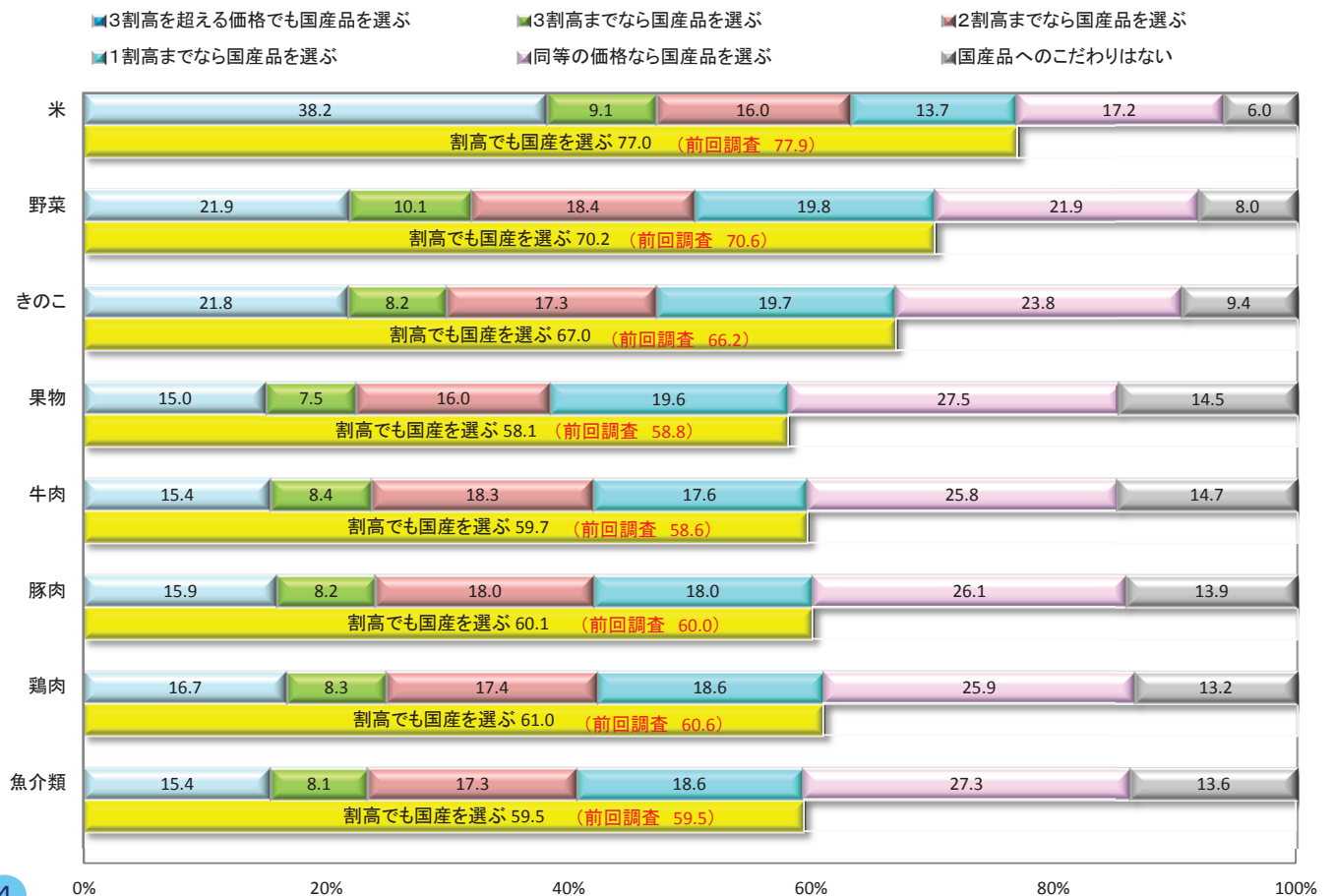


図7 品目別の国産食品の輸入食品に対する価格許容度／平成27年7月調査



4 飼料用米畜産物の購入経験・購入意向

飼料用米で育てた畜産物、約9割が購入に意欲

- 畜産農家における「輸入穀物の代わりに国産の飼料用米を家畜に与える取組」の認知度は、「知っている」が3割程度(30.9%)に留まる結果。その取組により期待される効果は、飼料用米生産を通じた「農地の維持」のほか、国産米を餌にして家畜が飼養されることから国産畜産物が「安全に感じる」が高い割合。
- 飼料用米で育てた畜産物(飼料用米畜産物)の購入経験は、約1割(11.1%)に留まる結果となったが、購入経験者に購入した印象を聞いたところ、価格は50.7%が「適当である」、おいしさでは53.4%が「おいしかった」と回答。
- 飼料用米畜産物の今後の購入意向は、約9割(87.4%)が「購入したい」と回答。特に女性では9割超。従来品に対する価格許容度を聞いた結果、「割高でも購入したい」は、約5割程度。うち、牛肉、豚肉、鶏肉では5割超という結果。

図8 飼料用米の取組に対する認知度と飼料用米の取組により期待される効果

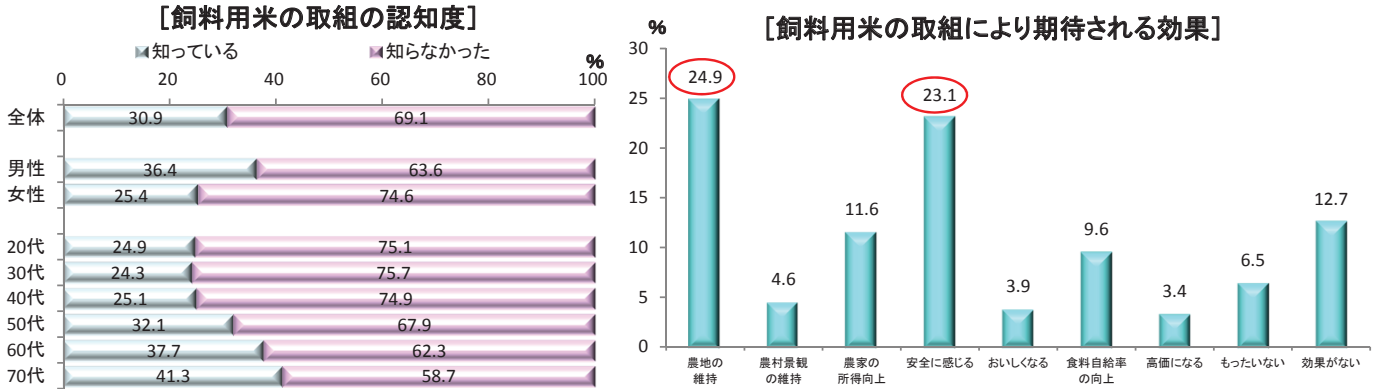


図9 飼料用米で育てた畜産物の購入経験と購入した印象

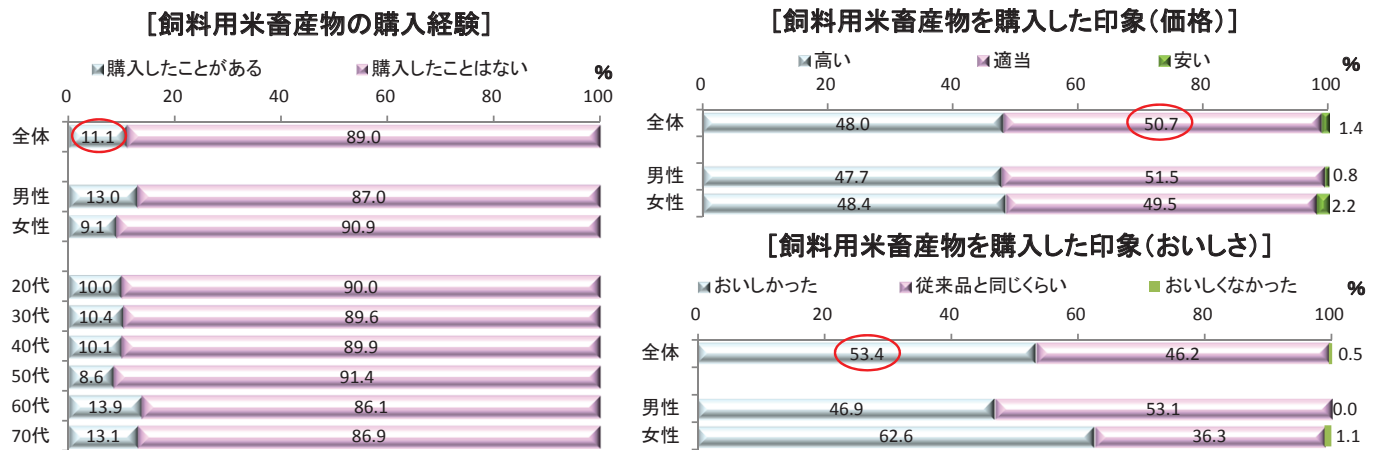
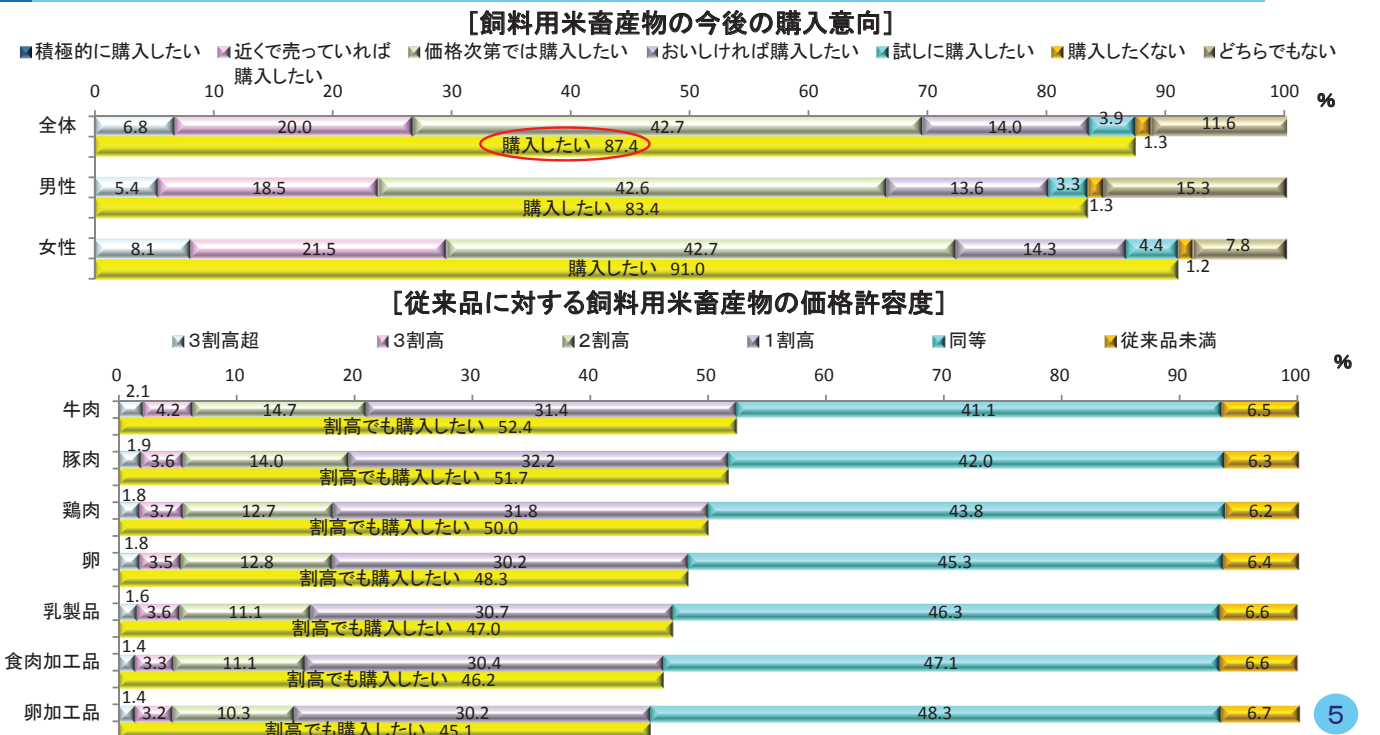


図10 飼料用米畜産物の今後の購入意向と従来品に対する価格許容度



5 食品購入時における安全性の判断基準

「食の安全」への関心度は70代が7割以上 安全性の判断基準は「国産」

- 我々は、日常生活を営む上で、自然災害や交通事故、病気・けがなど様々なリスク・問題に対して安全を意識しているが、それらの中で、「食の安全」がどの程度の位置づけであるか消費者に聞いたところ、「関心がかかなり高い」「関心が高い」あわせて49.3%となり、様々なリスク・問題の中でも「食の安全」は関心が高いことがわかった。年代別では、高齢層ほど関心が高くなる傾向があり、70代では72.8%と非常に高い関心。
- 食品を購入する際、食品の安全性について、何を基準として判断しているのかを品目別に調査した結果、各品目ともに「国産」であることが上位に位置づけられており、国産食品は「食の安全」に関する信頼が高いことを示す結果。そのほか、食品の購入先となる「店舗、販売業者」も、各品目で高い割合となっており、消費者にとって「食の安全」を確保する上で、これら事業者の位置づけは高く、その役割が重要であることがうかがわれる結果。

図11 「食の安全」に対する関心

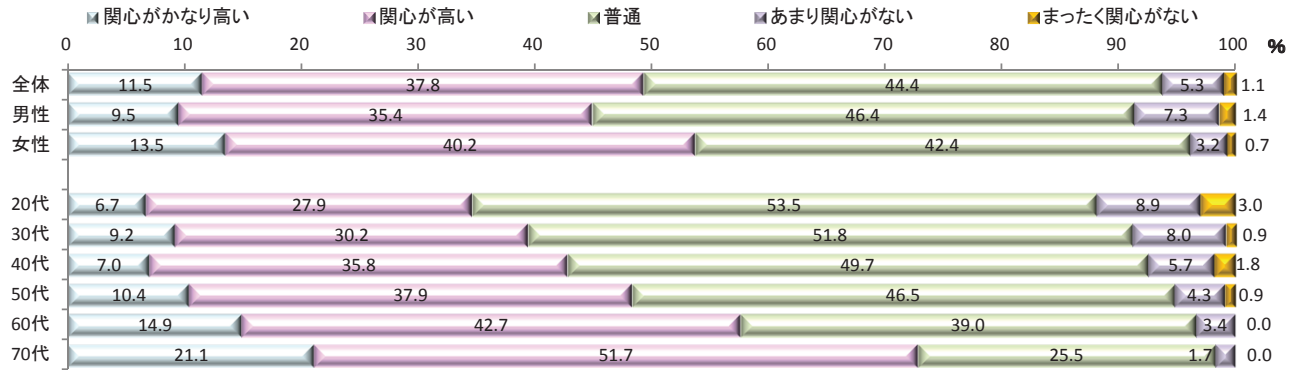
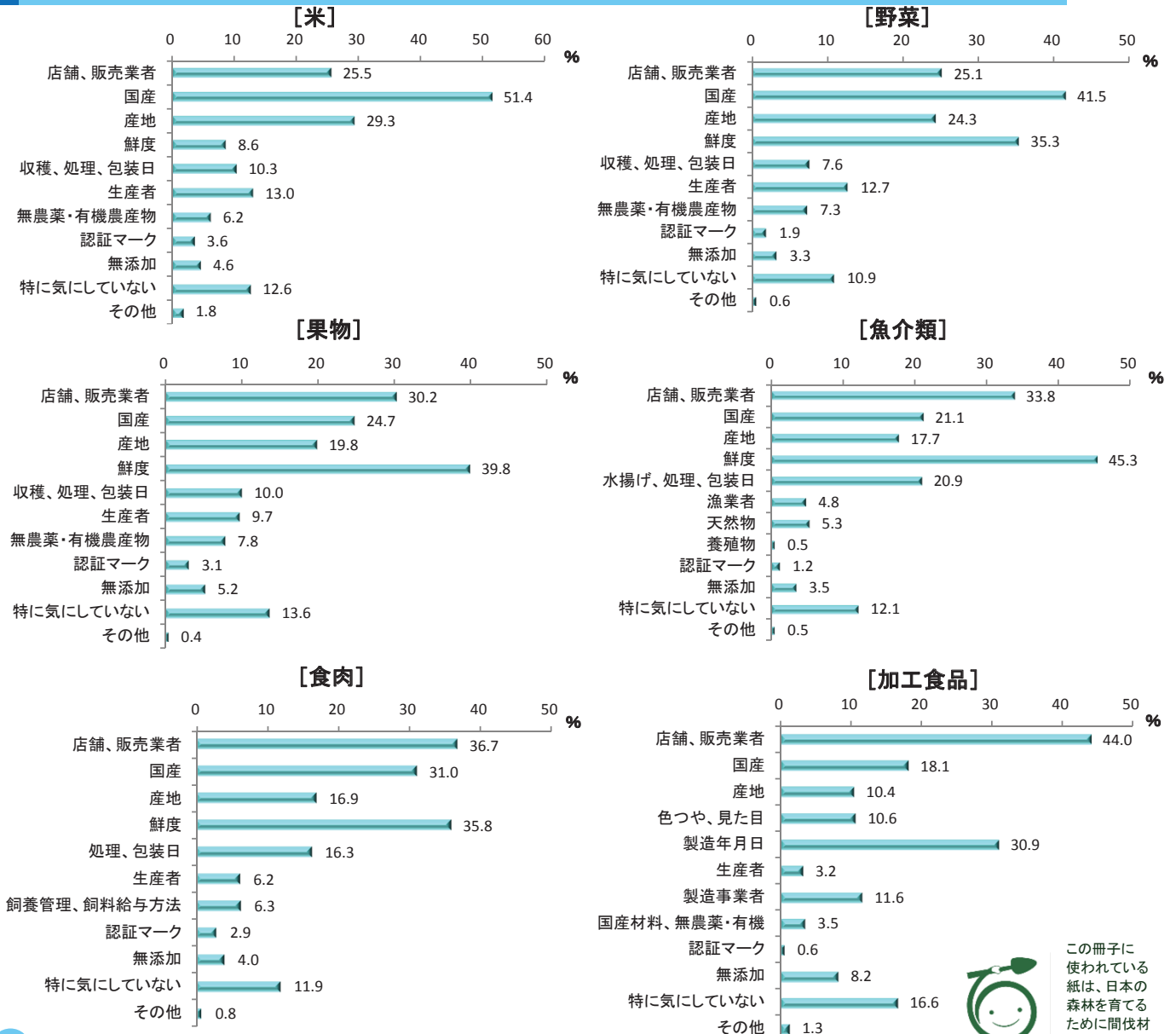


図12 品目別 食品購入時における安全性の判断基準（主なもの2つまで）



この冊子に
使われている
紙は、日本の
森林を育てる
ために間伐材
を積極的に使
用しています。